

令和3年4月23日	
所属	歴史博物館
所属長	伊元 俊幸
電話	06-6482-5246

尼崎市内の公園 345 か所を紹介する記録誌 『尼崎市の公園』の PDF 版をウェブ公開しました。

尼崎市は、前身である尼崎町時代の明治 43 年（1910）に庄下河畔に庄下川遊園地を設けて以来、市域の公園整備と緑化に努めてきました。近年、住みやすい街として評価される背景には、長年にわたる公園行政の積み重ねがあります。

市内の公園は、ひとつひとつが市民に愛される憩いの場であり、生活に溶け込んだ存在です。個々の公園を対象に、設置経緯や概要を知りたいと、歴史博物館に問い合わせに来られる方も少なくありません。

これについて、長く公園・緑化行政に携わられた市役所 0B の榎本利明さんが、公園維持課や歴史博物館の協力を得て市内全公園の調査を行ない、個人著作として本年（令和 3 年）3 月に記録誌『尼崎市の公園』を刊行されました。同書は市立図書館や歴史博物館地域研究史料室“あまがさきアーカイブズ”で閲覧できます。

市内 345 か所の公園について、設置経緯や施設の概要、公園としての特徴などを図面・写真付きで紹介した同書は、尼崎市の公園に関する参考図書の決定版と言えます。

きわめて有益な記録誌ですが、限定版非売品の同書を、より多くの方にご利用いただきたいと考え、このほど著者榎本氏のご了解を得て PDF データのご提供をいただき、歴史博物館公式サイト上に公開しました。

今後、市内の公園に関心を持つ多くの方に、この PDF 版をご利用いただき、尼崎市の公園のあゆみを知ること、公園やこれを取り巻く地域への理解と愛着を深めていただければと思います。

1 刊行物版『尼崎市の公園』

著者・発行者 榎本利明 令和 3 年 3 月発行 A4 判 403 ページ 100 部限定印刷

監修 湊稔 中村光夫 協力 富田聡一郎 川野久美 亀田康夫 石井里花

2 PDF 版の公開

(1)公開日 令和 3 年 4 月 23 日

(2)公開 URL <http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/digital/park/>
(尼崎市立歴史博物館公式ウェブサイト内)

3 『尼崎市の公園』PDF 版についての問い合わせ先

尼崎市立歴史博物館 3 階 地域研究史料室“あまがさきアーカイブズ”

〒660-0825 尼崎市南城内 10-2 TEL06-6482-5246 FAX06-6489-9800

E-Mail ama-chiiki-shiryokan@city.amagasaki.hyogo.jp

尼崎市の公園

Amagasaki City Park 345



1. 都市公園の現況 (公園維持課、公園計画・21世紀の森担当)

(平成30年度)

種別		箇所数	面積 (ha)
基幹公園	街区公園	241	49.43
	住区基幹公園	19	27.47
	近隣公園	7	17.84
	地区公園	3	12.81
	総合公園	1	10.94
特殊公園	運動公園	2	0.85
	風致公園	18	0.21
	街園		
都市緑地		42	65.04
広場公園		4	0.35
緑道		7	2.19
小計		344	187.13
県立公園	尼崎の森中央緑地	1	18.9
合計		345	206.03

市民1人当たり 206.03 ha / 451,179人 ≒ 4.6㎡/人 (人口は平成31年4月1日現在)
 市域面積に対する割合 206.03 ha / 50,726㎡ ≒ 4.1% (建設公園、園地による)

種別	内容	公園名
街区公園	主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園	長洲本通他240公園(別表公園一覧表を参照)
近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園	大物、橋、富前、中央、浜田川、大庄、浜田、近松、通草、西向島、声原、尾浜、北尾曾、霞島、柳田、猪名川河川敷、田能寺、尼崎城址、瀬江緑道
地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園	今福、蓮川、瀬江、塚口北、大井戸、上坂部西、西武庫
総合公園	都市住民の休息、娯楽、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園	水明、猪名川、小田南
運動公園	都市住民の主として運動の用に供する公園	記念
風致公園	主として風致を享受することを目的とする公園	佐理丘、猪名川風致
都市緑地	主として都市の自然環境の保全及び改善並びに都市景観の向上を図るために設けられる緑地	武庫川河川敷緑地41緑地(別表公園一覧表を参照)
広場公園	主として市街地の中心部に於ける休息又は娯楽の用に供することを目的とする公園	JR尼崎駅北広場、近松の重北広場、御園広場、アルカイック広場
緑道	災害等における避難路の確保、市街地における安全性及び快適性の確保等を図ることを目的とする緑地	長洲川緑地、常光寺川緑地、常光寺緑地、大門川緑地、新川緑地、西大物緑地、圧下川緑地

No.002 大物公園



清水彰利先生揮毫



国道2号線地下通路

昭和21年8月に計画決定され、昭和28年8月に用地取得がなされた。

昭和31年第11回国民体育大会の相撲会場として使用された。この大会当時は大谷重工株式会社の相撲場が強かったため、尼崎市が相撲会場に決定され、大物公園に相撲場が建設された。観覧席が設けられた立派な相撲場であった。

全国から相撲選手が集い大盛況であった。昭和31年11月30日には、昭和天皇の観覧を仰いだ由緒ある公園である。

JR 尼崎駅から大物公園までの大物線の道路が整備され、街路樹にプラタナスが植えられた。多くの市民や子ども達がこの道で天皇陛下を迎えた。

国民体育大会終了後は相撲場を利用する人が少ないので撤去された。野球場が十分な広さを確保出来なかったため、相撲場を含めて建設されていたが、ホームランで付近の民家へ飛び込み南東の酒屋さんから厳しい抗議を再三に受けたのであった。大物川が埋立てられ、昭和45年に産業郷土会館が公園に隣接して建設された。(産業郷土会館「尼崎市は全国から労働者が集い、その集い場の集い場が欲しい」との要請で建設された)。

同年に全国県人会の願いもあって、公園の北部分に日本列島を形作った植樹帯をつくった。日本列島演出は伊達設計事務所(伊丹市)に委託し、日本列島の縮小地図を作成して各県の県木を植栽を行った。そうして野球場と日本列島植樹帯で大物公園の形が出来上がっていったが、兵庫県から大物公園の野球場 1.8ha を是非県立病院の移転先として譲ってほしいとの要望が出された。市としては、都市計画決定された公園であるから公園変更は出来ないと強く主張した。しかし病院側は、大物公園は阪神電車大物駅に近くて阪神西

大阪線も大物に入ることで最高の病院設置条件であり、また、北城内の旧尼崎病院敷地は狭いので是非とも市域南部で建て替え用地を確保したいと主張した。結果的にはやむを得ず病院建設を受け入れざるを得なくなり、産業郷土会館を会場に三ノ坪・西大物地区の住民と夜間に数回にわたって話し合い公園変更(小田南との交換)に協力を頂いた。

昭和61年、県立尼崎病院が建設開業、病院の西側(旧大物川堤防)と東側の緑地が残された。病院東側三ノ坪地区の住民の希望により、病院があまり見えないようにと幅員20mの緑地を確保した。このようにして日本列島の植樹とともに大物の景観を守ることが出来た。

北入口に大物公園の園名石がある。なお、昭和62年に国道2号線福川橋改修に伴いトンネルによる南北通路を確保することが出来たが、一方で犯罪が生じるのではないかと危惧された。

教育委員会から蒸気機関車D51.8の展示は教育的価値も高いので、是非にJRから譲渡を受けて日本列島の植樹帯付近に設置したいとの要望があり、検討した。公園の活用面からも許可して積極的に協力し、SL設置は周辺対策と共に公園裏で行い、SLの点

SL D51.8

検と児童生徒の見学等については教育委員会で行うとの話し合いがまとまった。設置して46年、現在も適切に活用されている。

県立病院の施設を引継いだ尼崎だいち病院が中央に建てられているので、周辺が緑地という変形公園である。

■環境
 大物公園東側の墓地には残念さんの墓があり、多くの人によって、昔から信仰が続けられている。(注:「残念さん」とは、元治元年(1864年)禁門の変で大敗した長州藩士山本文之助が29歳の若さで尼崎藩に誘われて捕えられ、嗚呼残念と大声を上げて自害したという話による)。

交通にも恵まれ、阪神電車大物駅は西大物線と本線が交わる駅で、公園から駅まで100メートルもない。

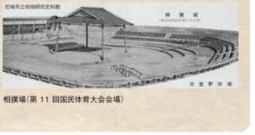
西側に西大物の戦後早くからの家並みがあり、北側は国道2号線が通り、阪神バスが停留所を設けて、落ち着いた便利な環境にある。かつては公害の煙が覆っていたが、現在では良好な環境である。

■地形
 大物は、源義経の「大物船出」で知られているように平安時代末から港として砂州上に発展した町なので、現在でも公園はOP(大阪河最低標高) +1.10mである。防災上、火災からの避難場所としては有効であるが、津波等の避難には隣接の尼崎だいち病院を津波等一時避難場所として市が指定している。

公園歴史探訪



昭和62年6月 尼崎市立地域研究史料館



相撲場(第11回国民体育大会会場)



所在地	東大物町1丁目64
面積	18,717㎡
公園種別	近隣公園
計画決定年月日	昭和21年8月15日
開園年月日	昭和30年10月1日